

平成 27 年度 南三陸町総合戦略推進会議 (第 4 回)	
日 時	平成 27 年 11 月 7 日 (土) 14:00~17:00
場 所	南三陸町役場 志津川保健センター 2 階会議室
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 審議等</p> <p>1) 南三陸町総合戦略策定に向けた今後のスケジュールについて</p> <p>2) 南三陸町総合戦略における基本目標及び具体的施策について</p> <p>4 閉会</p> <p><資料></p> <p>「第 4 回会議次第」</p> <p>資料 1 「戦略策定に向けた今後のスケジュールについて」</p> <p>資料 2 「基本目標等についての提案」</p> <p>資料 3 「総合戦略アウトライン (案)」</p> <p>資料 4 「総合戦略施策一覧 (案)」</p> <p>※別途、事前配布資料、及び未定稿資料 (会議終了後に回収済) あり</p>
出 席	<p>委員 (敬称略) :</p> <p><出席 : 13 名></p> <p>高橋未来 (住)、伊藤孝浩 (産)、渡辺公子 (住)、佐藤太一 (学)</p> <p>高橋直哉 (産)、稲本都志彦 (産)、甲斐茂利 (金)、安藤仁美 (住)、</p> <p>及川美香 (産)、小山祥子 (住)、佐藤克哉 (産)、重富裕昭 (言)、</p> <p>最知明広 (官)</p> <p><欠席 : 3 名></p> <p>小野寺邦夫 (産)、小野寺さとみ (労)、齋藤めぐみ (住)</p> <p>事務局 : 3 名 (檀浦室長、太齋係長、阿部主査)</p> <p>事務局補助 (南三陸町復興まちづくり支援事務所) : 6 名</p> <p>傍聴 : 2 名</p>

第 4 回 南三陸町総合戦略推進会議 会議録

< 1. 開会 >

< 2. 挨拶 >

会 長： 先日、南三陸町が、宮城県内で初めて FSC 認証を取得しました。認証を活用した展開ができることになりましたので、町の木材の需要に一役買っていただきたいと思っています。本日は、早めに基本目標を決定して、各論に入りたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

- ・事務局より、本日の進行及び資料の確認を行った。

< 3. 審議等 >

1) 南三陸町総合戦略策定に向けた今後のスケジュールについて

- ・事務局より、資料 1「総合戦略策定に向けた今後のスケジュールについて」の説明を行った。
- ・次回（第 5 回）の会議を、調整の上、11 月 30 日（月）とすることを確認した。

2) 南三陸町総合戦略における基本目標及び具体的施策について

●基本目標について

事務局： 前回の確認です。まず、基本目標は南三陸ならではのものがいいということでした。例えば、「仕事（ちから）」とルビを振り、複合的な意味を表す表現もいいという意見がありました。

また、国の基本目標は 4 つですが、本町の場合は、基本目標 4 は根底にあるものとして位置づけ、序文に記載したいという話もありました。序文に関しては、事前提出で 2 つの案を頂いています。まず、一つ目の案は序文の「案 A」から始まり、基本目標 1 は「代案 A」です。基本目標 2 が「C 案」、基本目標 3 が「H 案」となり、物語の流れのような提案になっています。ご本人から説明をお願いします。

【一つ目の案】

序文

案 A 森 里 海 ひと いのちめぐるまち南三陸

私たちは東日本大震災を経て気づかされました。

森 里 海 ひと いのちがめぐって生かされていることを。

だから、私たちは、いのちめぐるまちをつくるため、ここに宣言します。

基本目標 1

代案 A 循環の根っこ（一次産業）に水を注ぎ、花を咲かせます。

基本目標 2

案 C ミツバチ（人）が集まる、ミツたっぷりの花畑をつくります。

基本目標 3

案 H 世代をつなぐ女王バチ（女性）を、一丸となって支えます。

委員： 私の案は、目標をストーリー仕立てにし、イメージしやすくした案です。基本目標 1 は、仕事を一次産業に特化するという意味も込めて、「循環の根っこ（一次産業）に水を注ぎ、花を咲かせます。」としました。基本目標 2 の「ミツバチ（ひと）」は、その花に人が集まる、花畑をつくるです。

基本目標 3 では、その花畑ができれば、今度は世代を繋いでいく「女性」に特化して「一丸となって支えます」という流れになります。ゼロベースの案になります。

事務局： 2 つ目の案も紹介します。序文は「B 案」で、基本目標はそれぞれ「ち・か・う」の文字からつくっています。

【2 つ目の案】

序文 案 B 「森里海ひと いのちめぐるまち」に向かって、私たちは誓います。

基本目標 1 私たちは 地域の仕事を輝かせます ～第 3 回会議検討案

基本目標 2 案 B 私たちは ともに未来を拓く ひとびとが集う町をつくります

基本目標 3 案 F 私たちは みんなの絆で かけがえのない子どもを育みます

委員： 私の案は、基本目標 3 の「万物多様性（案 B）」、「生物多様性（案 C）」、「自然共存（案 D）」です。固い表現の提案ですが、とてもシンプルで、自然の中で暮らすイメージを表現しました。「万物多様性」は生物だけではなく、神様等文化的なものも含めて考えています。

委員： 私の案は、基本目標 3 の「案 A 私たちは 豊かな自然と あふれる地域(まち)の笑顔で 世代(いのち)をつなぎます」です。町民憲章や小・中学生へのインタビュー、若年層アンケート等から、豊かな自然に対する愛着を強く感じます。私のこだわりは「地域（まち）」です。これには老若男女、家族だけではなく、地域全体でコミュニティ育み、繋ぐということです。そこに「笑顔」という言葉も入れました。少し盛り込み過ぎましたが、豊かな自然と地域全体にこだわっています。

委員： 私の案は、基本目標 3 の「案 E 私たちは ともに支え合い 世代(いのち)をつなぎます」と「案 G 私たちは 次世代を担う子どもたちを みんなで守り育てます」です。基本目標の中で世代等を限定したからと言って、基本的方向の中でそれ以外を対象にできないわけではないと思います。基本目標の中で限定するのか、それとも広く捉えられる表現にしておくのかを議論しないといけないと思います。

事務局： 基本目標 1 は、前回皆さんで議論したものがいいのか。あるいはもう少し別のものがあるのでしょうか。一つ目の案のアイデアもいいと思います。

委員： 基本目標 1 は、前回皆さんで議論したものがいいと思います。第一次産業に活気が出ないと、その先に繋がらないと思います。

ミツバチと女王バチ等の擬人化もいいアイデアですが、基本目標で擬人化を用いることは、必ずしも良い方向に転ばないのではないかと考えます。

委員： ストーリーがあって、何が言いたいのかよく分かるのですが、ミツバチと南三陸のつながりが分かりません。

事務局： ストーリー性というアイデアをどこかで取り込むことを考えつつ、基本目標 1 は、前回議論したとおりとしましょう。

基本目標 2 は、「家（まち）」、「家族（まち）」、「町（かぞく）」のどれにするかが保留になっていましたが、どうしましょうか。「私たちは ともに未来を拓く人々が集う」までを、前回皆さんで決めました。

委員： 「町（かぞく）」がいいと思います。町だけど家族のような大きい単位、それを構成する小さい単位でそれぞれ表現する方がしっくりきます。

事務局： 多数決をしましょう。

<多数決結果>

○家（まち）： 1 人

○家族（まち）： 4 人

●町（かぞく）： 7 人

（※最終的には、「家（まち）」で決定）

委員： 逆説みたいですが、「町（かぞく）」はしっくりしますが、一方で平凡で斬新さがないという印象もあります。

委員： 「家族（まち）」は、身内だけで固まっている印象を受けるので、「町（かぞく）」の方がいいと思います。

- 委員： 「町」には、家々の集まりの意味があり、大きな家の中に色々な親族が集まるイメージがあります。一方で、「家」は、すごく大きな町に繋がると思いますし、温かい気持ちになります。ですので、「家（まち）」がいいと思います。「町（かぞく）」が一番分かりやすい言葉ですが、誰の家なのかがはっきりせず、惜しい感じがします。
- 委員： 今の意見を聞くと、「家（まち）」がいいと思います。
- 委員： 入れものという点で考えると、「家（まち）」がいいのかもしれませんが。
- 委員： ただし「家」だけですと、一般の人のイメージでは小さな小屋になります。もっと大きな家をイメージして欲しいのですが、何かいい言葉はありますか。
- 委員： 「家族」ですと、身内で固まっている感じが出るので、「族」を除いて「家」だけにした方がいいと思います。「町（かぞく）」がいいと思ったことも、そのような理由からではないでしょうか。
- 委員： 英語になりますが、「ホーム」もいいと思います。故郷であり、家であり、町も家族も意味する言葉ではないでしょうか。
- 委員： 帰ってくる、集まってくる、そこに集うという意味では、「家」がいいと思います。
- 委員： 家族、家の集合体が「町」であり、構成する一つ一つがしっかりしていないといけないという意味合いを伝えるには、「家（まち）」の方がいいです。「家族（まち）」ですと、捕える感じが強くなってしまいます。
- 委員： 「ホーム（いえ）」はどうでしょうか。
- 委員： 「人々が集う家」で「町」なので、「家（まち）」でいいと思います。「集う」があるので、そこに集まって欲しいという意味合いが十分に伝わると思います。
- 事務局： 「家（まち）」、「家族（まち）」、「町（かぞく）」、「ホーム（いえ）」。どれがいいでしょうか。
- 委員： 「家（まち）」がいいと思います。
- 委員： 私は、「家族（まち）」がいいと思います。「家族」の方が「町」よりも、第一印象で人をイメージできます。

- 委員： 「集う場所」ということではないでしょうか。それが、「家」や「ホーム」であり、「タウン」という意味にもなります。
- 委員： 皆さんは、序文にある「里」という言葉にどういうイメージを持っていますか。「里」も考え方によっては、コミュニティであり、「町」だと思います。
- 委員： 「森・里・海」に倣うと、森は林業、里は農業、海は漁業というイメージです。
- 委員： ここでの「家」が何を表すかと言った時に、この地域を前提にすると思うので、「里」でも合致するとは思いますが、「家」の方がより具体的になると思います。
- 委員： 「家」の方が、集う場所を「里」に限定せずに、「森・里・海」を包含できます。
- 事務局： 合意でよろしいでしょうか。基本目標 2 は「家（まち）」と書いて、「私たちは ともに未来を拓く人々が集う 家（まち）をつくります」に決定します。
基本目標 3 は、前回、「私たちは 世代（いのち）をつなぎます」がいいというところで終わっていました。
- 委員： 委員の案にある自然の多様性ですとか、自然を盛り込むことに共感しました。ただし、言葉が固いので、柔らかく、自然やめぐり会い等を表す言葉があればいいと思います。
- 委員： そう考えると、「案 A 私たちは 豊かな自然と あふれる地域(まち)の笑顔で 世代(いのち)をつなぎます」が自然に感じます。
- 委員： 「案 A」の「豊かな自然」はありきたりな言葉ではありますが、一番の宝物だと思います。子どもが自然の中で伸び伸びと育つことが、母親にとっては一番いいことだと思います。
- 委員： シンプルなもので「案 E 私たちは ともに支え合い 世代(いのち)をつなぎます。」があります。これに「自然」を加えると、「自然のなかで ともに支え合い 世代(いのち)をつなぎます」になります。地域全体で支えていく感じを出したいです。
- 委員： 「豊かな自然」とした方がいいと思います。「自然」だけだと、厳しい自然という意味合いにもなってしまいます。

委員： 厳しい面もあり、恵みもあるというのが、「自然」の実際のところですね。ある意味被災した場所ということもあるので、本来はそこに対して皆で支え合っていく視点も大事だと思います。

事務局： 豊かなだけではないというのは確かにありますね。ただし、「豊かな」と付けた方がイメージしやすいかもしれません。

委員： 「ともに支え合い」に、若い世代の「結婚・出産・子育て」がしっかりと含まれている感じがしていいと思います。

委員： 私もいいと思います。「案 A」ですと、「あふれる地域（まち）」が、基本目標 2 の「家（まち）」と被ってしまいます。

事務局： それでは、基本目標 3 は「豊かな自然のなかで ともに支え合い 世代（いのち）をつなぎます」に決定します。

【基本目標】

- 目標 1 私たちは 地域の^{ちから}仕事を 輝かせます
- 目標 2 私たちは ともに未来を拓くひとびとが集う ^{まち}家をつくります
- 目標 3 私たちは 豊かな自然のなかで ともに支え合い ^{いのち}世代をつなぎます

委員： ちょうど 3 つの「ち・Chi」になりました。

●具体的施策について

- ・資料 3「総合戦略アウトライン（案）」、資料 4「総合戦略施策一覧（案）」及び事前配布資料の説明、質疑応答を行った。

委員： 具体的施策の前に、序文について「案 A」は私の提案ですが、長いので、「案 B」の方がいいと思います。

委員： 序文ですから、ある程度しっかり説明があってもいいと思います。

事務局： 序文は「案 A」をベースにつくりましょう。

【序文】

森 里 海 ひと いのちめぐるまち南三陸

私たちは東日本大震災を経て気づかされました。

森 里 海 ひと いのちがめぐって生かされていることを。

だから、私たちは、いのちめぐるまちをつくるため、ここに宣言します。

事務局： 先ほど説明した具体施策についてはどうでしょうか。

委員： 行政が行っていることのイメージが湧かないと思います。ここにあるもの以外に何ができて何ができないかは私たちでは分からないので、これはできますかと提案をすることもできません。

委員： 何でもいいと思います。場合によっては、行政主体でなくても、民間主体でやればいいこともあると思います。

事務局： ただし、民間主体の場合は総合戦略に記載するかどうかという話があります。どのような形で記載するのか、どのように実行性を持たせるのかを考えなければいけません。行政のアシストとして、何が必要なのかまで書けたらいいと思います。

委員： 空き家バンクは、取り組んだ方がいいと思います。

委員： 土地、農地や放置林のバンクにも取り組んで欲しいです。

委員： 畑バンクも欲しいです。

委員： 町が情報をデータベースとして把握しておくべきだと思います。今後、色々な使い方ができるようになると、それが町外から呼び込むための資源になると思います。

委員： 空き家等をリフォームやリノベーションして使用する話をよく聞きます。それこそ、リスト化しておけば紹介できるようになるのではないのでしょうか。

事務局： 移住サイトで、一目で分かるような形にしたいと思います。

委員： 県内では 4 地区くらいしか取り組んでいませんが、お試し移住はショートステイに含まれますか。いきなり移住となると、ハードルが高いので、空き家を活用したお試し移住があるといいと思います。

委員： そこに仕事を加えると、地域留学にもなります。

委員： 色々な仕事を見て、体験して、自分がどういう仕事ができるかを知ってもらうことができますね。

委員： そのようなマッチングのシステムがあるといいと思います。

委員： 時間のとれる長期休暇やゴールデンウィークに行うといいかもしれません。

事務局： 例えば、このお試し移住は誰が受け入れるのですか。誰が受け入れて、その費用はどうするのか、そこまで考えてみてください。

委員： 移住するには、仕事がないと踏み込めないと思います。例えば、地域の仕事を輝かせようキャンペーンを行い、町が委託している事業の中で、お試し移住枠を設けて、まずはそこから取り組んでいくといいと思います。

委員： いりやど（町内の宿泊・研修施設）等はインターンシップの受け入れを行っています。自分の職場でも、最低でも 3 ヶ月は期間がないと教えるだけで終わってしまいます。3 ヶ月以上の受け入れであれば、受け入れる側にもメリットがあるという話がありました。

委員： 忙しい時期に来て欲しい等、職業によって受け入れたい期間はバラバラです。

委員： それらをコーディネートできる人を雇えるような予算や仕組みはありますか。仕組みがあれば、人を雇ってそこを軸に情報を集中させ、様々な人が連携することで、色々な発展ができると思います。

事務局： 現状はないですが、必要があれば予算を計上して、委託という形で行うことは可能です。

委員： 高知県の話イメージしていました。

委員： 高知県の田舎まちにある「土佐山アカデミー」の例を紹介します。そこでは、東京から若い人が多く移住してきています。コーディネーターと仕掛け人が、誘致対象を限定して、そこに向けて情報発信を行います。まちで確保した住まいに移住してもらい、仕事に関しては自分たちで作り出してもらいます。

委員： 地域の中で生業をつくる人たちを集めています。

委員： この話は、合同会社 paramitia の例です。この会社が行うことは、まずコーディネーターが地域に入り、その地域で何ができるかを全て調べます。次に移住者を募集して連れてきます。移住後も、移住者が地域にうまく溶け込むために、介添え役になったり、アドバイスを行います。そこまで行うことで、転入者が増えます。
このコーディネーターという存在をどのようにつくるかが、キーになると考えます。

委員： 地域に入っていくためには、いかに知り合いを増やせるかが重要です。私も 3 年前に移住をしてきましたが、観光協会で働いたことをきっかけに、色々なところで顔を覚えてもらえるようになりました。今では畑を借りる等、地域と繋がっています。

委員： もう一つ面白い話があります。最近、「アール・ブリュット（生の芸術）」が流行っています。福島県の猪苗代町では、昔のお宝が入っていた蔵屋の中を改造して、その地域にあるアートを展示しているそうです。その取り組みが広がり、長野県の池田町では、毎年定期的にイベントを開催して、多くの人が集まるアート村ができているそうです。

委員： ターゲットを絞った方が効果的ではないでしょうか。アーティストや起業家等、漠然と呼びかけても、定住までには時間がかかるかもしれません。限定したターゲットに向けたプログラムが必要ではないかと思います。

事務局： コーディネーターについては、移住相談窓口の中で行うことを予定しています。

委員： 実際に移住してきた方の経験は、コーディネーターとして生かせると思います。

委員：先月、東京で開催された移住フェアに参加した際に、やはり町に来て欲しい人を明確にした方がいいと感じました。ターゲットが明確になると、施策も明確になるのではないかと思います。

委員：町としてターゲットを絞るのは難しいと思いますが、例えば事業をしている人だと、うちにこういう人が欲しいみたいなものが明確にあると思います。例を挙げると、町内に住む知人の方ですが、次々とアイデアが湧いてくるけれども、そのアイデアに取り組む人材がないということがよくあるそうです。専門のコーディネーターを入れることも大事ですが、事業者自身がコーディネーターの役割を兼任できるのも面白いと思います。

委員：町内の既存の事業者も元気になるとよりいいので、ハローワークに載らないような細かい求人もマッチングしながら、起業家を集めることができるといいと思います。

ターゲットを絞ることは大切だと思います。私の実家は製材業ですが、それまで大工さんに売っていた材料が売れなくなった時期があり、それを全てネットで販売しました。板きれ1枚の一点もの等、カット材をつくった時に出る小さな端切れでも、アートをする人には需要があり、全国から注文がありました。販売した木材が工芸品としてできあがった時に、このような使い方もあるのかと感じました。

この町にも色々な可能性があることを発信できれば、最初は小さい集団でも次第に増えてくると思います。コーディネーターは柔軟に、「これはダメ」ではなく、まず話を聞いて一緒に悩んであげられる人がいるといいと思います。コーディネーターには各地区の元気な年配者を巻き込み、地域ぐるみの活動ができるようになればいいと思います。

事務局：今配布した未定稿の資料は、移住総合窓口のイメージになります。移住希望者に対して空き家や仕事、移住を促すには何を行えばいいのかを考えています。この中に、コーディネーターのマッチング指導も入ってくると思っています。

個別の具体的な話は尽きないですが、このような話を今後も議論できる枠組みをどうしたらいいかを考えることも重要です。それを総合戦略の中に入れ込み、継続して議論を深めて、受け入れ体制をつくっていくことが必要だと考えます。

委員：これだけ数多くのテーマがあると、それらを考える場所と人が必要です。

委員：総合戦略が確定したから終わりではなく、有志での定期開催にするのか、ネットワークは推進会議を核にネットワークを広げて、継続した方が身になると思います。

委員：施策の中に、地域課題を話し合う場というカテゴリーを一つ増やしておく取り組みやすいと思います。

- 事務局： 資料の一番下を書いてある、地域シンクタンクの創設のようなものがあります。このイメージを落とし込んだものとして、南三陸のプロモーションをする外郭団体をつくれなにかと思っています。例えば、こういうものを核にして個別の課題について議論することもありかと思っています。
- 委員： 現在も多数の団体や復興青年会が活動し、観光協会もパワフルにイベントや企画をしています。それらが横にも繋がり、ガッチリと腕が組めれば大きな力になると思います。
- 委員： 南三陸の町には、色々な団体や色々な人達があります。違った発想を持った人たちが、農協や漁協等との関係から壁にぶつかったときに、調整をして、譲りあうような場が必要だと考えます。まず、そこをどうするのかを議論したいです。
- 委員： 理想論はどんどん発言するべきだと思います。できる、できないではなく、考えることに価値があると思います。
- 委員： 制約条件をどう外すかだけの問題です。何ができるのかを考えていけばいいと思います。
- 委員： そのような取組に特化するためには、やはり何か組織があるといいと思います。今の体制ではいつも跳ね返されてしまいます。
- 委員： 移住してきた人たちにきれいな町を荒らされる心配もあります。例えば、隣の畑を土地バンク等で貸し出して、花を育てても最後までやりきれなくて、そこに虫がやって来るといったこともあります。
- 委員： 当然、農業や林業、漁業もですが、ルールは絶対に設けるべきです。そこには、FSC 認証や ASC 認証が活用できると思います。農業の認証はまだないですが、これは絶対守ってくださいというルールは必要です。
- 委員： 町外から転入して来て終わりではなくて、地域に根ざしてもらうために、そのような取組も含めて調整できるコーディネーターや事業者が必要だと思います。
- 委員： やはり、ワンストップサービスが必要になるのではないのでしょうか。
- 委員： 例えば、自分が先ほどの外郭団体で働いたとしたら、何から取り組むのだろうと考えていましたが、どうなのでしょう。

委員： 基本的には定めた総合戦略を行っていけば良いと思います。

委員： この町で子どもを産むメリットがないと思います。子どもを産めば産んだだけ何かがあった方がいいです。お金を使いますが、例えば 3 人目からではなくて、1 人目から祝い金が出る。そうすると、2 人目も産もうという気になります。祝い金として 20～30 万円の現金を貰えるのは嬉しいです。

育英資金等を利用している方は大勢いるのでしょうか。もし、利用する人が少ないなら、返さなくていいですとしてしまってもいいかと思います。

委員： 18 歳まで医療費無料は本当にありがたいです。

委員： 制度を利用しなかった場合にも何か特典があるといいです。元気でいて何かを貰えたら嬉しいですし、ちょっとしたことで病院に行くよりもよほどいいと思います。

移住してくる人にとってのメリットも大事ですが、既に町に住んでいる人にもメリットがあると嬉しいです。町に定住し続ける理由が欲しいと思います。

委員： 定住を増やすことが狙いですので、数ヶ月ではなくて、5 年、10 年というスパンでいて欲しいわけです。

会長： いくつかは町でも既に実施しています。世帯の 2、3 人目の子どもは保育料を払わなくていいですし、育英資金も返さなくていいものもあります。

委員： 同世代の話ですが、新婚でその地区に転居すると家賃補助があるから、それを理由に籍を入れることもあるようです。

事務局： 南三陸町の場合は、他市町村よりも保育料の設定を低くしています。

委員： 預ける子どもがいないと意味がないので、もっと外に発信していくことが大事ではないでしょうか。

委員： 子どもがたくさん産まれるようになり、例えば出生率 1.8 をカバーできる保育施設が今の町にはあるのでしょうか。

事務局： あります。

委員： 今なら、待機児童の受け入れ可能という情報を町のホームページ等で発信することも必要だと思います。

委員： 子どもを預けられる施設があるなら、まず子どもを育てる環境としてこの町を選んでもらえるようなアピールが必要だと思います。極端な話、働く場所は町内に限らず、から通える範囲の他市町村でもかまわないと思います。

他所の人たちからみれば、医療費が 18 歳まで無料は、それだけでも魅力的です。南三陸に住んでいれば当たり前ですが、そのようなことをもっとアピールした方がいいと思います。

委員： 待機児童は、宮城県が平成 31 年にゼロにすると明示していますので、それだけではあまり差別化ができません。プラスアルファを考えないといけないと思います。

委員： どういう教育ができるのかをアピールするのは一つありだと思います。

委員： 森の中での体験ができるとか、海で泳げるとかをアピールできるといいと思います。

委員： それぞれの学校の紹介を載せてもいいと思います。例えば、プールの有無や、各学校が力を入れている活動をアピールしてはどうでしょうか。南三陸町に移住するという選択だけでなく、町内のどの学区に移住するかという選択もあると思います。

会長： 今年度、小中学校のホームページを更新する予定です。今まではホームページがある学校もない学校もありましたし、十分に更新されていない状況でした。

委員： 志津川高校だってもっとよさをアピールすれば生徒が増えると思います。インターネットのメリットは、細かい情報も載せられることだと思います。

委員： ネットはよくも悪くも誰でも見られる大量情報です。「南三陸町」で検索すればヒットするけれども、「南」だけではヒットしないといったデメリットもあります。

委員： インターネットでホームページをつくったら終わりではなく、それ以上の案を考えないといけないです。

委員： テレビならそれなりにインパクトがありますけれども賞味期限も短いです。それぞれ一長一短はあるけれども、どの方法をとるにしても、とにかく露出をしないといけません。

- 委員： 役場の総合案内受付で、あそこに行きたい、こういうことを知りたいといったことに対して細かな情報の提供はできるのでしょうか。インターネットで何でも検索できるように整理することもいいと思いますが、私はアナログ人間なのであまりにも情報が多すぎると見るのが疲れます。役場のどこに行けば相談にのってもらえるのかを教えてくださいてもらえる場所があるといいと思います。
- 委員： 地域の仕事を輝かせるではないですが、子どもたちが役場職員になりたいと言い出すような役場の雰囲気も必要かもしれません。
- 委員： 子どもたちが憧れを持つことは大事です。気仙沼市で取材した水産団体による地産地消の取り組みの話を紹介しします。地元の食材に目を向けてもらうために食育の一環で、子どもたちにメカジキやホタテのカレーを一緒につくって食べてもらいました。カレーに合うとは思わなかったという声もあり、そのインパクトが将来的に地元の誇りや地域愛になっていきます。「美味しかった。家でもう一回食べたい」という思いが消費の拡大に繋がります。小さなきっかけの積み重ねが大事で、子どもたちの感動を繋げていくことができればいいと思います。
- 委員： 長野県のある自治体では、給食を徹底的に地産地消にして、給食時に「本日のキュウリは、〇〇さんのところのお父さんがつくりました」というようなアナウンスを行いました。その結果、子どもたちの将来になりたい職業ランキングで、翌年に初めて農家がトップ 10 にランクインされたらしいです。
- 委員： 仕事の色々な可能性を教えたいと思います。例えば、公務員でも、役場職員と病院職員ではそれぞれ仕事違いますし、お店と言っても色々なお店があります。
- 委員： キッザニア南三陸ですか。
- 委員： 町をひとつのテーマパークと考えることもいいと思います。
- 委員： その発想は持っていていいような気がします。魅せるという意識ですね。
- 委員： 気仙沼市は現在取り組もうとしています。
- 委員： 南三陸町に限らず、宮城県内で取り組みがあれば、宮城県全体がいいじゃないですか。
- 委員： 南三陸でも、就業体験等の取り組みを始めてもいいと思います。

委員： 仙台駅からのアクセスもよくて、自然も豊かですので好条件です。

委員： 石巻市雄勝町に「モリウミアス」ができたので先週行ってきました。今年の夏にオープンしてからたくさん子どもたちが来ていて、300～400 人が一週間滞在していました。ここまでののかというくらいの体験をさせることで、雄勝町の魅力を一気にアピールしています。その取組を担っているのは NPO や一般社団法人です。モリウミアスの素晴らしいところは、生活に密着した、その土地の漁師や農家が実際に行っていることを一緒に取り組んで、子どもたちに深い体験をさせていることです。ここが従来の就業体験とは一回りも二回りも違います。

事務局： 南三陸町でも取り組んでいるのですが、まだ伝わっていません。

委員： 発信することが大事なのです。

委員： 町の仕事に触れる取り組みを、総合戦略の施策として入れたらいいと思いました。中学校や高校で町の人が先生になっていると聞いたことがあるので、既に取り組んでいるのかもしれませんが、町の子どもたちが、町で仕事をしている大人たちと出会う場をつくるといいかもしれません。

委員： 基本目標 1 の施策「まちの仕事を輝かせる」の主な事業「町内企業の活動見える化事業（拡充）」に含めるのがいいと思います。町がどのような産業で成り立っているのかを、町外の人に対しても、町内の子どもたち対しても、見える化してあげることになるのではないのでしょうか。

委員： 子どもに限らず、町内の大人も対象にしていいと思います。

委員： その方がいいと思います。林業とは何かと言っても、知らない人も意外にいます。

委員： 町内の学校で体験学習は行われているのでしょうか。

委員： 中学校では職業体験があります。小学校 3 年生は、社会科の授業でスーパーマーケット探検に行きます。

会長： 「私たちの南三陸町」という冊子があります。その冊子を使って地域のことを勉強する機会があります。ただし、仕事に限らず、町の歴史等全般的な内容になっています。

委員： 町探検等もよく行っています。

- 委員： 気仙沼市は総合的な学習の一環として、牡蠣の養殖を種付けから収穫まで、シーズンを通して行っています。
- 委員： 求職者に対して行う企業説明会を、子どもたちや町の人に対してアピールをする場として、そこに色々な町の力を輝かせる要素を加えることは、やり方次第で可能だと思います。ただし、施策名からは中身を見せにくいと思うので、もったいないと思います。例えば、全ての施策に対して町の力を輝かせる要素を逐一入れていくのか、人もしくは委員会を置くこともいいと思います。
- 委員： 結局、一番足りないのはアピールということでしょうか。
- 委員： 小・中・高校で、志教育を行っています。自分の夢を紙に書くのですが、学年によって細かく書くのか、大ざっぱな夢を書くのかは違います。小学校だと漠然とした夢ですが、中学校になると具体的な職業を書きますので、そこで将来なりたいものを考えさせられます。ですが、中学 1 年生の時点では、職業の選択肢がどれだけあるのかは全然知らないと思います。
- 委員： 町の仕事自体も全然アピールが足りないです。この前産業フェアがあったのですが、何社も出展していません。
- 委員： ただ就業体験をこなすだけでは、将来の選択肢にはりません。体験の見せ方が大事だと思います。
- 委員： うちの会社のユニフォームもそこを意識しています。産業フェア等で、ランキングで上位に入った会社は賞金を貰える等してもいいかもしれません。
- 委員： 林業であれば、木の枝を切るところや、切った後に寸法を整えたものを、男の子に見せてあげたら方がいいと思います。
- 委員： 農業機械も試乗できたら面白いです。産業フェアで散布車の試乗に行列ができていました。
- 委員： 委員のところに漁業体験に行って合羽を着た子どもは、将来漁師になると言っていました。
- 事務局： 輝かせる部分が足りないという中で、具体的にどのような取り組みがあったらいいのでしょうか。行政と民間の役割分担があると思いますが、誰がどのように取り組むとうまく魅せられるのでしょうか。

委員： 地元の方で、そのようなことをうまくやっている人はいますか。

委員： 観光協会の場合は、一般社団法人で民間になりますので、公平性を持たず、手を挙げた人を応援していくスタンスです。手を挙げてくれそうな人を探す一面もあります。

委員： やはりコーディネーターが重要なのではないですか。

委員： この町でコーディネーターとなりうるような、農業や水産業等に格好よく取り組んでいる事業者が皆さんの頭の中にはいますか。

会長： 各分野で町のキーになる方々はいます。

委員： 観光のインバウンドについてですが、広域連携の視点が入っていないです。南三陸単独では難しいので、インバウンドを載せるのであれば、そういう視点も必要だと思います。

事務局： ここでのインバウンドとは、外国人のツアーを呼び込むことです。担当からは、地域連携として、平泉観光を中心に南三陸町へ滞在してもらうことを考えていたのですが、沿岸で連携をしようとしてもうまくいかなかったとのことです。

委員： なぜうまくいかなかったのでしょうか。

事務局： 例えば県がつくった協会を入れる等、目的が合致しなかったのではないのでしょうか。個別で連携すれば、もしかすると大丈夫かもしれません。

委員： 大がかりな連携という意味ではなくて、例えば気仙沼市と連携して、南三陸町にはなくて気仙沼市にある資源、あるいはその逆の資源は、お互いに交換し合いましょうということです。

事務局： 連携がうまくいかなかった理由は、気仙沼市も南三陸町も魚介類を売りたいですとか、目的が重複するからではないでしょうか。

委員： そうであったとしても、これから何を売り込むかについて、必ずしも重複するかどうかは分かりません。もちろん一部は重複するかもしれませんが。

事務局： 南三陸町は、市に囲まれているので、近隣と連携すると埋もれてしまうと聞いたことがあります。

委員： 逆だと思います。それでしたら、なお更連携しないとイケないと思います。

委員： 観光協会の立場として言うと、確かに広域連携をしようと思うと、売りたいものが被ります。この町にしかないものがあればここに来ますし、例えば地引き網等はこの辺では行ってないので大島を選ばれます。漁業体験でも何でも、売りたいもの自体はどこも同じなので、そこは難しいところです。

私は教育旅行も担当しているのですが、この町の民泊のキャパシティは 120 名程度なのですが、それに対して予約の希望は 240 名だったりします。大型の団体を受け入れる場合等は、連携しやすいと思います。

委員： 訪日外国人誘致整備事業とありますが、これは難しいです。台湾や中国から団体旅行客が来ると、南三陸の特産品を大量購入してもらえることは嬉しいですが、この町には合わないと思います。

視点を変えてみるといいと思います。例えば、一般社団法人の O.G.A.For Aid は、対外的に YouTube を使用して、英語でどんどん発信しています。それを見た外国人が町に訪れています。海外を訪問する人はネットで調べて、ここが面白いというところに殺到する傾向がありますので、この町のまた違った魅力を発信できるのではないかと思います。

事務局： 行政が主体で行ってうまくいくかどうかの話し合いも必要だと思います。どこと組むのかということもあると思います。

委員： 視点を変えて、業務の委託先としてそういう NGO と組んでも面白いのではないのでしょうか。この町に根付いて頑張っている NGO がたくさんあります。

事務局： 行政が組むということでしょうか。行政でなくても、例えば、観光協会でもいいということでしょうか。

委員： 大事なことは、そのための資金が必要だということです。なので、業務を委託するという形にしないと、NGO はやがていなくなってしまう。

事務局： 同じことをする場合、観光協会なら明日できるかもしれないことが、行政では半年・1 年とかかるかもしれません。そういう意味でも、誰が主体になるのかをはっきりしないとイケないと思います。

委員： 個別の議論は尽きないと思います。誰が取り組むかという視点も大事で、それをどう決めていくかを、この会議の中で決めないとイケないと思います。例えば分科会を開いて、分科会ごとに挙手制で参加するという決め方をした方がいいと思います。

事務局： そのとおりです。自分がプレイヤーになろうとしている人しか真剣に考えられないと思います。提案を頂くのはいいのですが、それは誰がやるのでしょうか。自分がやらないという提案は議論の性質上難しいと思います。行政でやるべきことをミニマムにした方がいいというのは最初の会議で言ったとおりですが、その上で誰がやるのか、どう決めるかを考えることは必要です。

委員： 今はアイデアばかりが先行していて、誰がやるかという視点が抜けているので、実行性は全くありません。

事務局： 行政と民間の仕分けも必要になります。従来は行政が行っていることを民間に委託した方がいい場合もあるでしょう。

委員： 基本目標 2 に施策「関係人口を増やす」があり、その中で「地域おこし協力隊受入れ（新規）」として、「協力隊員を委嘱する」とありますが、これは先ほどのシンクタンクとは別の取り組みとして括るのでしょうか。

事務局： そのとおりです。協力隊員になりたい人に対して町が委嘱するものです。

委員： 具体的な課題があって、その課題の解決のために人を派遣するという制度です。

委員： 協力隊員の方は、色々なことに関わることがあるのでしょうか。

事務局： 色々なことに関わることができますが、そこは絞らないといけません。

委員： 主体的な担い手ですとか、コーディネーターになりうるのでしょうか。

委員： 協力隊員はシンクタンクと一緒に括ってはどうでしょうか。あえて町の事業として別に括るべきなのではないでしょうか。

事務局： 制度的に、町の事業でないといけません。

事務局： 地域おこし協力隊は、総務省の制度に町が手を挙げるという意味で新規としています。今年までは復興応援隊という形で手を挙げていて、総務省から予算が出ています。

委員： 先ほどのシンクタンクのコーディネート機能を、地域おこし協力隊に担わせることはできないのでしょうか。

事務局： 地域おこし協力隊は、どちらかというところ、この町でこういうことに取り組みたいというものが先にあって、その上でできてもらうようになると思います。

委員： 期間はどのくらいでしょうか。

事務局： 3 年です。3 年目には独立起業を目指してもらうことになります。どんな人が来るかにもよりますが、協力することによって、シンクタンクの機能の一部を担ってもらうことはできると思います。

委員： 3 年間の地域おこしによって地域がまとまり、4 年目はシンクタンクに移行するという考え方を組み込むこともできそうです。

事務局： 総務省の制度としてあるので、制度は制度として使わなければいけません。

委員： 外国人は観光協会にも来るのでしょうか。

委員： 最近が増えてきていて、アジア圏の方が中心です。ただし、今は個人だけです。学校の教育旅行の誘致を始めているので、来年は 20 人単位で来ると思います。

委員： シンクタンクの話ですが、地域資源研究は、大学と連携するようなイメージで書いてありますが、これを少し強調できないでしょうか。基礎研究は全て含まれているということでしょうか。「地域資源の調査・研究、人材育成、交流発信（休止中）」とありますが、これが復活して拡大することで財団等の組織になるということでしょうか。

事務局： これも議論があると思います。直接種まきをするべきという意見もあれば、もっと人材育成をするべきという意見もあると思います。

委員： 大学と連携するかは別の話として、研究機能は絶対持っていた方がいいと思います。「研究機能を強く持つ」でしょうか。すぐに価値を生まないかもしれないですが、行政が最後まで行うべきものは研究だと考えています。

委員： 施策「子育てしやすいまちづくり」についてですが、3 ヶ月検診、6 ヶ月検診、3 歳検診のように、小学校入学まで定期的に集まる機会が欲しいと思います。同じ月の乳幼児健診で会った子どもたちが最初の友達になるので、お母さん同士も顔見知りになります。3 歳児検診までで終わってしまうと、その後は幼稚園・小学校等に入るタイミングまで関わりがなくなります。

事務局： 必ずしも検診の場ではなく、継続的に会えたりする場ということでしょうか。

委員： 会える場だけとなると、目的がはっきりしません。検診を継続できればいいと思います。小学校入学前くらいまでは顔を合わせる場があってもいいと思います。例えば、体重、身長を測ったり、様子を診るだけであっても、「検診」という名前にしてあると、「今日は子どもの検診があるので午後は休みをください」と会社に言いやすくなります。

事務局： 今回挙げた意見を整理して、総合戦略に入れるのか、入れないのか、もう一回皆さんにフィードバックしたいと思います。整理した資料を皆さんに後日送付します。

< 4. 閉会 >

以上